

ランチョンセミナー 3(LS3)

Straumann Digital Workflows with TRIOS®3

演者



植松 厚夫 先生

(総合インプラント研究センター 副施設長)

【略歴】

ITIメンバー
ハーバード大学歯学部留学 Dr.Weberに師事
日本口腔インプラント学会 専門医・指導医
日本臨床歯科医学会 指導医
東京SJCD 理事

近年、口腔内スキャナーが軽量化、小型化、そしてスキャンングスピードの高速化によって非常に臨床的に使い易くなり、CAD/CAMのデザインソフトウェアや使用する材料が充実してきたことから普及率も急激に増加してきている。

デジタル歯科治療を円滑におこなうためには、現在のアナログ的な考え方をデジタルへ完全に移行する必要がある、単にアナログの延長上にデジタルがあるものでもない。例えば、天然歯の支台歯形成において光学印象をおこなうのであれば、従来の形成ではなく光学印象の原理原則を理解し、それに合わせた支台歯形成をおこなう必要がある。また、デジタル化するという事は、単に「シリコン印象を省く」ことや、「石膏を使用しないワークフローを形成する」ことではなく、デジタル化によって診療のワークフローを単純化し、快適な歯科診療を患者へ提供することである。その結果、術者側にもストレスの少ない診療を提供するものであると考える。

特に、よく話題に挙げられるのがデジタルワークフローで製作された補綴物の精度であるが、従来の歯科治療と異なる部分は、使用しているデバイスつまりスキャナーの種類によってデジタルワークフローや補綴物の精度も異なってしまう部分である。

そこで、今回は3Shape社のTRIOS®3を用いてStraumann社のこれからのデジタル化に触れながらお話を進めて行きたいと思う。

日時

2019年
2月10日(日)

12:00 - 13:00

会場

第3会場

5階 コンコードボールルームC